

青棋会月報

編集発行
和歌山青棋会
連絡先
紀ノ川将棋クラブ
(TEL) 0734
52-1574
和歌山市 祝取217

竹中さん全国でベスト8に!

【優勝争いは時の流れが如し】

第3回 読売アマ将棋日本一決定戦

- ▲7六歩 ○3四歩 ▲6六歩
- 8四歩 ▲5六歩 ○6二銀
- ▲6八銀 ○5四歩 ▲5八飛
- 4二玉 ▲4八玉 ○3二玉
- ▲3八玉 ○5二金右 ▲2八玉

(第一局) ▲竹中郁夫
○宮沢 巧



- 8五歩 ▲7七角 ○7四歩
- ▲6七銀 ○4二銀 ○3八銀
- 5三金 ▲7八銀 ○6四金
- ▲5八金左 ○5三銀右 ○5七金
- (第1図) ○7五歩 ▲5九角

優勝八十万円を賭けて

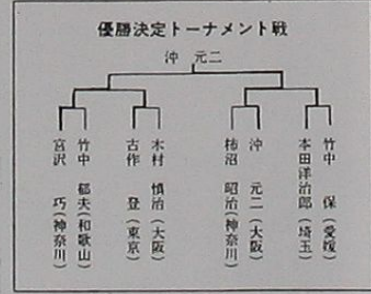
全国大会一回戦

抽選で西と東があたるように組合せを決めた。
宮沢(徳) 竹中
竹中さん大きな大会は初めてとあって、かえってあまり欲がなさそう。ニコニコしている。宮沢氏のほうは、黒く目に焼け、うすくひげの伸びた精かな顔。引締った体を黒シャツで包んでいる。試合開始の30分ぐらい前は、会場の隅で机に伏して休んでいた。燃えあがる闘志をなんとか静めているような感じだった。

- 7二飛 ▲7五歩 ○同金
- 6四歩 ▲3七角 ○3六歩
- 9八香 ▲9二香 ○4六金
- 4四銀 ▲2六歩 ○1四歩
- 1六歩 ▲7五歩 ○同歩
- 同金 ▲7六歩 ○7四金
- 5二飛 ▲5九角 ○2七銀
- 5九角 ▲9五角 ○7二飛
- 9五角 ▲3八金 ○4五歩
- 3八金 ▲4五歩 ○3七桂
- 9四歩 ▲7四角 ○7七角
- 6四金 ▲2五歩 ○2五歩
- 6六歩 ▲同銀 ○6六歩
- 7六飛 ▲6五歩 ○6五歩

(第2図) 大きな大会は初めてという竹中郁夫氏

▲6五歩以下は次号(NQ9)へつづく。



第10回 青棋会 (10月7日)

結果

順位	名前	新レーティング	増減	対局数	通算増減	通算増減
(1)	浜田	2170	(欠)	6	-30	
(2)	伊達	2159	+6	4	31	+59
(3)	竹中	2152	(欠)	...	3	+2
(4)	加藤	2149	(欠)	...	7	-1
(5)	太田	2148	(欠)	...	5	-52
(6)	横町	2109	+63	4	24	+9
(7)	南	2105	(欠)	...	10	-95
(8)	西尾	2101	(欠)	...	29	+1
(9)	岩本	2101	(欠)	...	2	+1
(10)	長岡	2074	(欠)	...	9	-26
(11)	三木	1983	+1	5	30	+83
(12)	吉森	1983	(欠)	...	30	+83
(13)	中芝	1981	+14	5	12	-19
(14)	谷口	1980	-97	5	35	-20
(15)	竹村	1973	(欠)	...	9	-27
(16)	池田	1967	(欠)	...	19	-133
(17)	土田	1929	(欠)	...	16	+29
(18)	井上	1904	(欠)	...	2	+4
(19)	奥田	1892	(欠)	...	3	-8
(20)	藤松	1882	(欠)	...	14	+82
(21)	東	1854	(欠)	...	4	+54
(22)	城内	1849	+39	5	33	-51
(23)	西園	1826	-22	4	14	+26
(24)	木村	1812	(欠)	...	3	+12
(25)	林	1789	(欠)	...	23	-11
(26)	的場	1725	-4	4	29	+25

第10回青棋会は秋分けな各地で運動会が開かれ室内でじっとするのは我々だけじゃないやろかと語りはすむ10月7日、8名の参加によって開かれ、横町さんがプラス63点の高得点を上げ、賞品を獲得しました。なぜか不調の谷口さんはマウス97点と元気がありまし、手合標のハンディを克服して頑張ってたいてね。

11月11日(日)12日(月)に第3回朝日アマチュア将棋名人戦近畿大会が大阪の通天閣を会場にして戦われました。約200名の参加者でしたが、青棋会員で参加したのは竹中、西尾、伊達、吉森、谷口、土田、奥田、藤松の8名でしたが、二日めまで誰も残ることができ和歌山勢惨敗の大会となりました。

しかし、竹中、土田、藤松の各氏は1日めの最終局まで奮闘し、特に土田氏と藤松氏の勝ち抜いていた勢いには青棋会レベルの高さを実証するに足るものがあったと言おうです。